






平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	古河市立総和南中学校 全校生徒476名（1年150名、2年164名、3年162名） 保護者参加者のべ10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 学級活動 ） ② 行事名（ オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、生涯スポーツの機運を醸成するとともに、生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
5 取組内容	<p>〔「オリンピック精神」の醸成〕</p> <p>○東京 2020 教育プログラム（国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」）を活用し、全校でオリンピックについて学習（スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び）し、参画意識を養う。</p> <p>○図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置し、オリンピック精神の醸成を図る。</p>  <p>〔スポーツを楽しむ心の醸成〕</p> <p>○第1回オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 平成29年11月6日（月）13：40～14：30 ・場 所 総和南中学校 体育館 ・演 題 『夢は叶うでしょうか』 ・講 師 2016 リオデジャネイロ オリンピックボート 日本代表選手 中野 紘志 選手  <p>○第2回オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 平成29年11月22日（水）14：25～15：15 ・場 所 総和南中学校 体育館

	<ul style="list-style-type: none"> ・演 題 『挑戦』 ・講 師 ホッケー女子日本代表 チーム「さくらジャパン」 赤谷 衿香 選手  <p>○校内持久走大会を実施し、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 平成29年12月8日（金） ・場 所 総和南中学校周辺特設コース <p>○生徒一人一人がどのように東京2020オリンピックに関わっていけるかを学級活動等で考えていく。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○「オリンピック精神の醸成」については、学校のホームページに「オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進校」である旨の記事を掲載し、保護者や地域に向けて啓発活動を行った。さらに、図書室には「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し、関係書籍や国際地図を掲示し、生徒の興味関心に応えられるようにした結果、東京オリンピックを身近に感じられる生徒が増えた。</p>  <p>○「スポーツを楽しむ心の醸成」については、オリンピックを招聘した2回の講演会を開催したことにより、夢を持ってあきらめずにやり続けることの大切さや、気持ちの整理の仕方、チームとしてどのように成長していけばよいかなど、具体的な話の中からたくさんのお話を学ぶことができた。生徒それぞれが部活動や普段の生活中で、目標に向かって努力する姿が見られた。また、12月に開催された校内駅伝・持久走大会では、参加者全員が最後まであきらめずに走り抜くことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○2019年に、「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されることから、県教育庁保健体育課と連携し、茨城県で雇用している「スポーツ専門員」の中から、活躍が期待されるオリンピック等を招聘し講演を実施することで、オリンピック・パラリンピックと合わせて、茨城国体についても、意識啓発を進めた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○オリンピックを招聘した講演等についての学びがより深まるように、生徒や保護者に、なぜ「オリンピック・パラリンピック教育」を推進していくのかについて、丁寧な説明や丁寧な事前学習をすることが大切であると感じた。</p> <p>○オリンピック（講師）の招聘等について、紹介してくれるコーディネーターがいるとありがたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○2020オリンピック・パラリンピックに向けて、今年度の取り組みをもとに、次年度以降も、東京2020教育プログラムを活用したり、本校で講演していただいた選手の応援を続けたりすることで、さらなる機運の醸成や、生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てていく。</p>